小型ＩＣタグで真贋判定

「紙の宝石」を偽造から守れ！～荻野哲哉氏個展において～

「蔵書票」というものをご存知でしょうか？
日本では聞きなれない言葉ですが、15世紀の後半頃にヨーロッパで活版印刷術が実用化され「本」が出回るようになると自分の所有であることを示す為に「蔵書票」を本に貼り付けるようになったとのこと。
木版や銅版で印刷され美しく装飾された「蔵書票」は、本に貼るだけでなく切手と同じように収集の対象にもなっています。

蔵書票は本に貼ってその持ち主を示す紙片です。蔵書票の用途としては、ただそれだけのものですが、その図柄は個人が個人の持ち物であることを主張する目的から、実に多種多様な図柄が見られます。

蔵書票は、ラテン語でExlibris(エクスリブリス)と呼ばれ「誰それの蔵書」という意味になります。本に貼るものなので、それほど大きくなく、Exlibrisという文字を入れること、所有者の名前を入れるということが制約としてあげられるようです。

ギャラリー上原で開かれた荻野哲哉氏の個展の告知

美しいアートとその人の名前やアイデンティティをデザインした紋章や文字が融合し「紙の宝石」と呼ばれるほど貴重なもので、大切な方への贈り物としても最適です。
荻野哲哉氏は、この「紙の宝石」と言われる蔵書票に強く魅かれ、制作し続けている作家です。

荻野氏曰く、挿絵でも表紙絵でもなく、プライベートな読書空間で絵と本とその持ち主を結び付ける、本好きには夢のような蔵書票の世界に魅せられ、以来CGで制作に取り組んでおられるとのこと。

ICタグ活用の有効性

紙幣の偽造さえも特別な事件ではなくなってしまった昨今では、アートとしての評価が高い同氏の蔵書票も、偽造防止に心を砕かずにいられない状況だが、そんななかで心強い味方が現れた。小型ICタグである。

ICタグは各々が世界で唯一のID番号を保有しており、2つとして同じ物がないため偽造防止目的においても脚光を浴びている優れものだが、Suica等に代表されるカードサイズでは、如何せん蔵書票には大きすぎる。折角の「紙の宝石」もICタグがはみ出していては台無しだ。

荻野氏の蔵書票。希少性と独創性から単なるアートとしてでなく贈答用にも人気

しかし、宝飾業界向け開発された小型ICタグであれば蔵書票に挟み込んでも、まったく気にならない。
かねてよりICタグの有効性に興味を持っていた荻野氏がこれを見逃すはずがない。また、ICタグは複数を対象にした一括読込にも強く、蔵書数が多い個人や図書館での管理に有効であることもわかってきた。

近い将来、美しさ・魅せるアート プラス実用性を兼ね備えた使える「紙の宝石」が主流になるのかもしれない。

間違いなく荻野氏の蔵書票からは、未来を見据えたアートの匂いがする。

▲実際の小型ICタグ ほぼ原寸大 (アンテナサイズ 30×10mm)
◀蔵書票を裏から見たところ、矢印の部分にICタグが透けて見える。

お問合せは
PEC フェニックス電子株式会社
本社営業部　TEL075(757)8142　FAX075(757)8143
東京営業部　TEL03(3668)0201　FAX03(3668)0203
中部営業所　TEL0568(29)2145　FAX0568(29)2146
URL https://www.phoenix-denshi.co.jp/

PHOENIX-ELECTRONICS Co.Ltd. All Rights Reserved